

こんなことしている人はいませんか？

1つでも心当たりのある方、野生動物を招いているのは、あなたですよ！



畑に野菜や果実の
要らないもの、
収穫時期が
過ぎたものを
そのまま置いて
いませんか？



芽の出ってしまった
ジャガイモや
タマネギなどを
周辺に捨てて
いませんか？



果樹を
手入れせずに
放置して
いませんか？



鳥獣害を防ぐには！

～対策のすすめ方～

対策に取り組む前に
これだけは覚えておきましょう。

野生動物は集落にエサがなければ
やって来ません。

集落に来た野生動物がエサにありつければ、
それは餌付けと同じことです。

鳥獣被害対策の第一歩は、集落をエサ場として
魅力のない所にする事です。

農作物の他に雑草や野菜くず、放任果樹などが
餌付けの材料になっていると気づいてください。



獣害の原因＝集落で進む「餌付け」

集落に害獣がやってくるのはエサがあるからです。農作物は動物にとっておいしいエサ。
被害は「餌付け」の一部といえます。さらに「人慣れ」が進むことも餌付けの原因となります。

あなたの集落は大丈夫？

1 「餌付け」していませんか？

被害が起きるのは集落内に当事者としての自覚がないまま、下の図のような「餌付け」をしている実態があるからです。こうしたエサを無くすのが、獣害対策の第一歩です。

2 「人慣れ」させていませんか？

鳥獣のエサとなるものが集落内に放置され、しかも追い払いもしなければ、その結果として人慣れさせたりして、餌付けをしたのと同じことになります。



たまたま集落に行ったが、危ない目に遭わずにエサが食べられた。もう一度行ったが、今度も危ない目に遭わずにエサが食べられた。

「ここはいつ行ってもエサを食べられる場所」と学習します。



牧草地の牧草

→ 対策 電気柵で囲う



冬も青々した法面の雑草

→ 対策 秋に草刈せずに放置し、冬枯れさせる



ゴミ捨て場の生ゴミ

→ 対策 しっかり囲っておく



稲刈り後の雑草やヒコバエ

→ 対策 刈り取るかすきこむ



対策の順序は

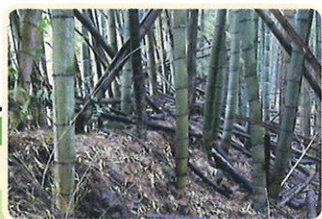
- ① みんなで勉強
 - ② 守れる集落・守れる畑
 - ③ 自分でやる囲いや追い払い
 - ④ 捕獲・大規模柵
- 「何をやるか」よりこの順序が大事。

みんな、③か④から始めて失敗するんですけどね、①、②、③、④の順番守ってやろうと思いながら対策始めたらね、おもしろいことに、①だけで被害減り始めたり、①と②やったところでサル、来る回数減ったり、③までで被害、どっかへ行ってしまうことが多いんですね。(井上雅央さん)

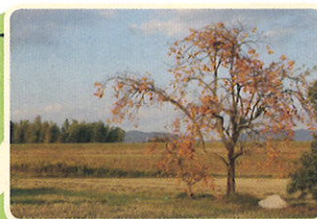
(井上雅央著『これならできる獣害対策』より)



集落には食べても「怒られないエサ」がいっぱい。



放置した竹林のタケノコ
→ 対策 竹を伐採するか枯死させる



植えたまま未収穫の果樹
→ 対策 収穫できない場合は切る



お供え物
→ 対策 持ち帰る



放置された野菜クズや収穫物
→ 対策 埋めるかコンポストへ入れる

イノシシの生態と対策

イノシシは十二支(干支)のひとつで私たちにとってなじみのある動物ですが、意外とその生態は知られていません。被害対策の第一歩は、まずイノシシのことを正確に知り、田畑周辺の生活痕跡を見逃さないことです。

イノシシの生活痕跡 (フィールドサイン)



生態

食性

雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べます。農作物のほか、昆虫やミミズ、ネズミなどの小動物もエサとしています。草や木も食べます。

行動

本来は昼に行動する動物ですが、人の影響が少ない夜間も活発に行動します。落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林など食料になるものが豊富にあり、身を潜められる場所を好みます。記憶力がよく、侵入に成功した仲間の行動を真似するなど、高い学習能力を持ちます。その一方で警戒心が強く、通りなれたけもの道を移動します。ジャンプ力があり、垂直に1.2mの高さを飛び越え、また20cmの隙間もくぐり抜けます。鼻で押し上げる力は70kgの石を簡単に動かすことができます。

繁殖

交尾期は年に1回で12～2月頃、出産期は4～6月頃。満2歳で初産を迎え、平均4・5頭を産みます。寿命はオスが6歳、メスが10歳程度です。

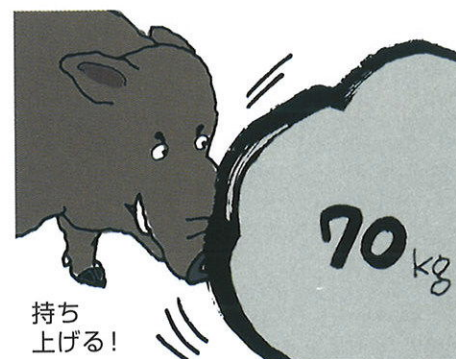
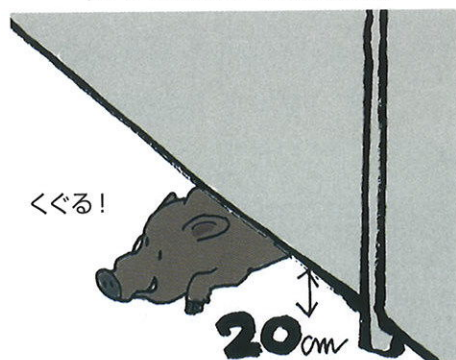
特徴

- “猪突猛進”はパニックになって逆上した時の姿。本来警戒心が強く、臆病で注意深く、あまり人前に姿を現しません。反面、いったん慣れると大胆不敵にもなります。
- 鼻は敏感で、周囲の臭いや感触をさぐる際に使われる一方、地面を掘ることもできます。
- 体毛は太く、剛毛で、電気を通しにくくなっています。

被害状況

最大の被害は根菜類と乳熟期以降の水稻です。水稻では穂の食害のほかに、踏み荒らしとヌタウチによる倒伏もあります。

イノシシの驚くべき身体能力



剛毛は電気も平気!





被害防止のためのワンポイント・アドバイス

1 防護柵の設置がとにかく重要！

イノシシは縄張り意識が弱いため、一度でもイノシシに侵入された田畑には次々と何頭かのイノシシが現れて被害が拡大します。トタン、ネット、金網を使った柵やワイヤー式電気柵などの防護柵を設置するのが効果的です。高い身体能力を持っていますので、十分な強度をもった柵にしましょう。

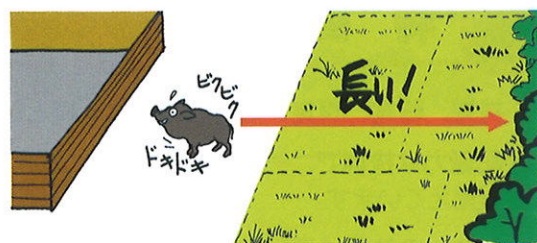
- トタン柵：持ち上げたり、跳び越されたりしないようにすき間をなくし、高さを十分に確保して設置しましょう。
- ネット：くぐり抜けられたり、食い破られたりしますので、足が絡むように、柵の上部から地面に向けて斜めに張るのが効果的です。
- 金網柵：接地部分や角が弱点となるため、固定をしっかりと行いましょう。また、シカ対策との複合設備の場合は、シカへの対応を基準としましょう。
- 電気柵：地形にあわせて設置し、草が接触することで電圧が低下したり、ショートしたりしないように管理しましょう。シカ・サル対策の複合施設の場合は、サルへの対応を基準としましょう。また、柵の高さはシカに対応したものにしておくと、もしシカが出た場合に安心です。



ちょっとしたズボラが大きな被害に！

2 草刈りによって隠れ場所をなくす！

イノシシは警戒心が強い動物です。草刈りで柵の周囲の見通しを良くし、隠れ場所をできるだけなくすことで、簡単な柵でも設置効果を上げることができます。



田畑のまわりを2～3m刈り払うだけでも効果がある

3 エサになるものを野外に放置しない！

せっかく田畑を柵で囲っても、柵の外にエサとなるものがあればイノシシを呼び集めてしまいます。集落内にエサとなるものが野外に放置されないようにしましょう。



イノシシの唯一の天敵は人間

4 活発に動く人の姿が最も効果的！

イノシシが一番怖いのは人間です。田畑で活発に動く人間の姿を見せるのが最も防除効果の高い方法です。

ニホンザルの生態と対策

ニホンザル(以下サルとする)は学習能力が極めて高い動物です。どんなときに何をすれば農作物を守れるのかを知るためには、まず知恵比べの相手であるサルのことを知っておくこと。“まず柵ありき”は間違いです。



生態

食性

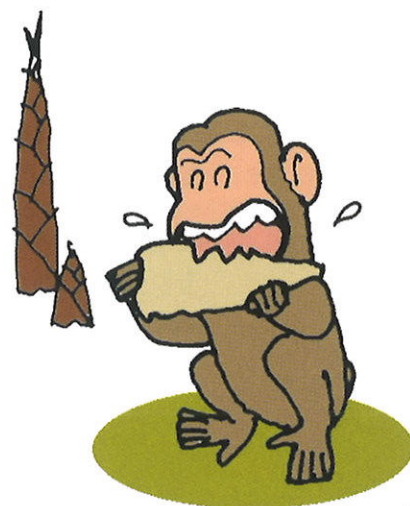
雑食性で、植物性のものを中心に食べ、果実や虫も好んで食べます。トウガラシ、コンニャク、シソ、ゴボウ、ショウガ、ワラビなど、辛味や香り、アクの強い植物を避ける傾向が見られます。

行動

早朝と夕方が採食のピークで、日の出から日没までの明るい時間だけ活発に行動し、夜間は活動しません。群れによる集団で行動し、決まった行動範囲の中で周期的に動きます。群れはメスと子どもを中心に構成され、十数頭から百頭を超えることもあります。オスは大人になると群れを離れて単独で行動したり、他の群れに移ったりします。また、高い学習能力を持ち、集落内の食べられるものを少しずつ覚えていきます。木登りが得意です。

繁殖

交尾期は年1回で秋から冬、出産期は春から夏です。2～3年に1頭の割合で出産しますが、エサが豊富にあると年1頭ずつ産みます。寿命は20歳前後です。



タケノコも大好物



特徴

- 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間とほぼ同じです。
- 記憶力は抜群で、一度味わった恐怖体験は忘れません。場所や状況も覚えています。
- 土地への執着は深いが、群れ同士のバランスがくずれたり、環境に大きな変化があれば新しい土地に適応する柔軟さもあります。
- 新しいものや状況、場所を警戒しますが、いったん慣れると大胆に行動します。“人慣れ”が進むと追い払うのは難しくなります。
- 長距離を走るのは苦手な、安全な場所から離れることを嫌がります。
- 群れで行動するので、数頭が柵越えてきてエサにあり付いても他のサルが入れないとそのエサ場はあきらめます。



被害状況

- 主に果樹、野菜、水稻、大豆、イモ類が被害されます。
- 群れで加害するので、短時間でも被害が大きくなります。



オスは単独で行動することも



被害防止のためのワンポイント・アドバイス

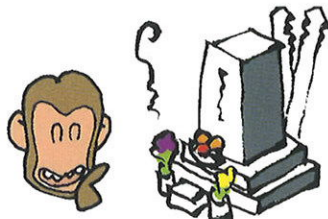
1 エサになるものを野外に放置しない！

サルはいつでもエサを狙っています。軒先など屋外にはエサとなるような農作物を保管しないでください。集落内に放置された生ごみ、収穫されない果実、遅れ穂などは格好のエサとなります。

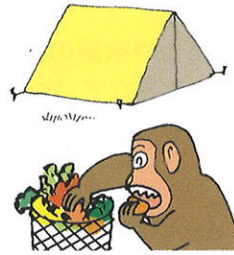
サルの大好物



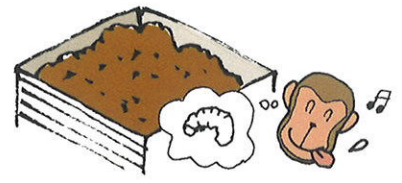
落ち穂・2番穂



お墓のお供え物



生ごみ



堆肥置き場のいも虫

2 地域ぐるみで「追い払い」を！

サルの天敵は人間です。侵入したところを脅かされるなど、怖い目にあうことの多い集落は次第に避けるようになります。

追い払いなどの威嚇する行為は、あきらめずに集落全体で力をあわせて根気よく進めることが必要です。

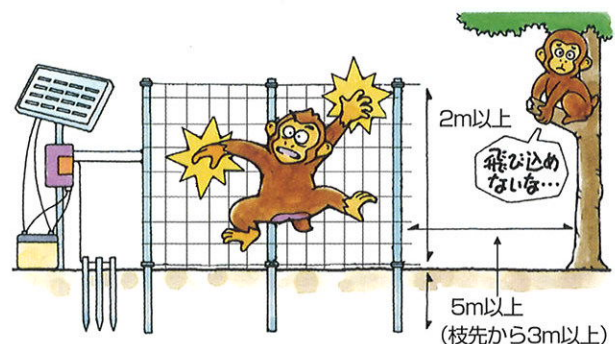


3 サルの習性を考えて柵の設置を！

防護柵を設置するのは一つの方法です。しかし、柵が樹木や建物のそばにある場合、飛び込んで柵を乗り越えます。飛び移れないように防護柵は周囲の樹木や建物などから5m以上あけることが必要です。また、サルが手を伸ばしても盗まれないように、農作物は柵から離して植えつける必要があります。

4 電気ショックも効果あり！

サルは柵をよじ登って侵入します。電気柵は地面に足が着かなくてもショックを与えることのできるもの（＋極と－極がネット上にあるもの）が有効です。



アライグマの生態と対策

カナダ南部から中央アメリカに分布するアライグマ科の哺乳動物。日本にはペットとして入ってきたものが野生化し、分布域を拡大してきています。尾にあるシマ模様が他の動物と見分ける際の大きなポイント。



生態

食性

小型哺乳類、鳥類、両生類、魚類、昆虫、農作物など、なんでも食べる雑食性で、しかも大食漢です。

行動

夜行性で、日中は、高い樹上や家屋の屋根裏などのねぐらで休みます。5本指の爪を立て、木や柱、壁をのぼるのが非常に得意です。小川や用水、側溝などを歩いて移動します。

繁殖

成長が早く、1歳になるとメスは繁殖できます。3月下旬から5月上旬にかけて、1～6頭の子供を産みます。野生の個体の寿命は7～8年といわれています。



スイカは穴をあけ、中に手をつこんで食べる



特徴

- 体長は40～60cm、体重は3～8kgで中型犬くらいの大きさです。
- 最大の特徴は、20～40cmのシマ模様のしっぽです。



被害防止のためのワンポイント・アドバイス

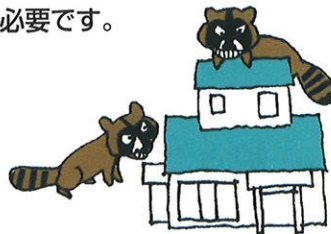
1 エサを与えない

見た目は可愛くとも、絶対に餌は与えてはいけません。生ゴミを畑に不用意に捨てたり、廃棄する作物を畑に野積みして放置したり、果物をなりっぱなしにすることのないようにしましょう。



2 ねぐらをつくらせない

アライグマの侵入口になりそうな壁や床下、屋根の近くの隙間はふさぐようにしましょう。特に、神社などの古い木造建築は、ねぐらや繁殖場所に使われやすいので注意が必要です。



3 積極的に捕獲する

繁殖力が強いアライグマは、個体数を減らすべく、積極的に捕獲する必要があります。捕獲には、箱わなが効果的です。



「特定外来生物」アライグマの捕獲

ペットとして北米から日本に持ちこまれたアライグマは、急激な数で増え続けています。農林業や生態系に大きな影響を与えることから「外来生物法」（平成17年施行）に基づいて、「特定外来生物」に指定されており、したがって狩猟免許取得者だけでなく、特定の講習を受けた者も捕獲を行うことができます。

鳥獣保護法と外来生物法のちがい

鳥獣保護法（有害鳥獣捕獲）

捕獲期間…随時
運搬…捕獲者が運搬

外来生物法

捕獲期間…年中（年度ごとに更新）
運搬…地方公共団体の職員のみが運搬可能

ヌートリアの生態と対策

原産は南アメリカで、戦時中は軍服用などの毛皮獣として、各地で盛んに養殖されたヌートリア。当時養殖されていたものが野外に放逐され、主に西日本に定着したといわれています。ネズミの仲間で、眼や耳は小さく大きなドブネズミのような体つきです。



生態

食性

主に水生植物や二枚貝を採食します。水路沿いに移動するため、イネの食害が最も多く、スイカ、ニンジン、サツマイモ、キャベツなどの野菜も食べます。

行動

泳ぎが得意で、水面を泳いでいる姿をよく見かけます。陸上では主に水際を移動し、水辺から離れた行動範囲はあまり広くないといわれます。本来は夜行性ですが、昼間でも活動がよく観察されます。冬眠はせず、春になると動きが活発になり、主に家族単位で生活します。

繁殖

池沼や河川の中・下流域の流れの緩やかな場所周辺に巣穴を作って繁殖。特定の繁殖期はなく、年に2～3回出産、平均5頭を産みます。



被害防止のためのワンポイント・アドバイス

1 特に水辺近くにエサを放置しない

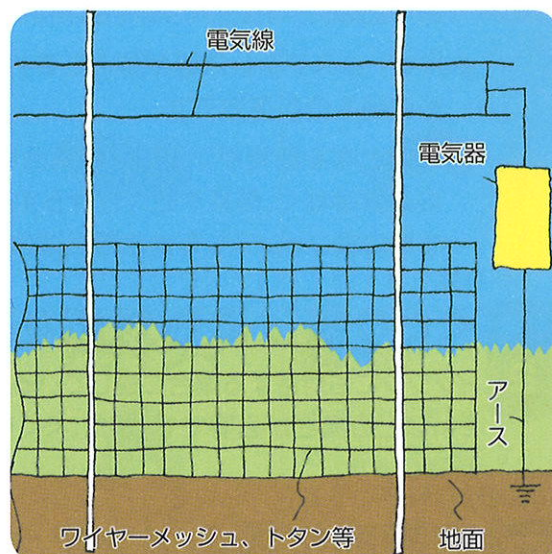
田畑周辺にエサとなるものがあると寄ってきます。農作物は残さずに早めに収穫しましょう。特に活動範囲になりやすい水辺周辺にエサとなるものを放置しないことが大切です。

2 電気柵の設置が有効

柵を設置する場合は電気ショックを与える電気柵が有効です。田んぼでは、河川へつながる水路から入られないように柵を設置します。ただし、電線が雑草に触ると漏電するため、メンテナンスを欠かさずに行いましょう。また、トタン板や畦波板、ネット設置の場合は、1m程度の高さで耕作地を囲います。柵の下に穴を掘って侵入することもあるため、柵は地面に30cmほど埋め込むとよいでしょう。電気柵との組み合わせで更に効果が上がります。

3 営巣場所や隠れ場所をつくらない

耕作放棄されヨシ原となったような田んぼは営巣場所となりやすいため、田んぼや水路周辺の草を刈払って見通しを良くし、隠れ場所や侵入ルートを少なくしましょう。



ネット柵等と電気柵を組み合わせると効果アップ

ニホンジカの生態と対策

シカのフィールドサイン



生態

食性

アセビなど特定のものを除いて、ほとんどの植物を食べる草食動物です。冬期には、秋に草刈りをした道路わきやあぜなどに芽吹いた緑草を好んで食べます。

行動

1.6m以上の高さを超えるほどのジャンプ力を持っています。ただし、かかとが丈夫ではないため、網などのかかとを傷つけるものを嫌います。通常オスとメスは別々の群れをつくって行動しています。活動は昼夜を問わず、2～3時間採食して、2～4時間反芻をするリズムをくり返しています。

繁殖

交尾期は年1回で、9～11月頃、出産期は5～6月頃。満2歳で初産を迎え、以後毎年1頭を出産します。寿命は10～12歳程度です。



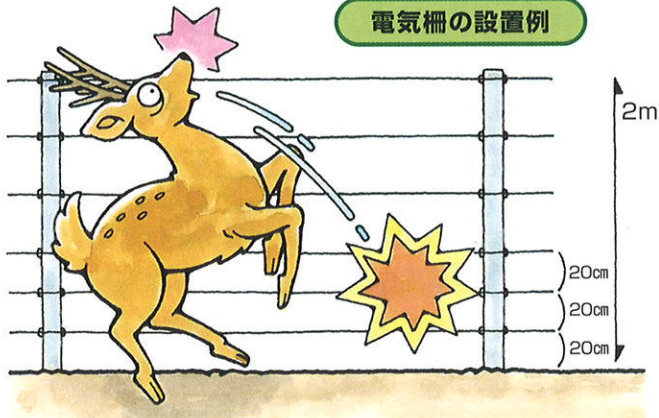
対策

1

防護柵の高さは2m程度に!

- 防護柵によって物理的にシカの侵入を防ぐのが最も効果的です。
- 柵にはトタン、ネット、金網フェンス、電気柵などがありますが、柵の高さを2m程度にする必要があるため、シカにはトタン板は向いていません。
- ネットはステンレス線が編みこまれたものを斜めに張るのが有効です。
- 対象となる動物がシカだけの場合には、電気柵の必要はなく、効果や耐久性からすると、高価ですが金網フェンスも有効な選択肢の一つです。

電気柵の設置例



電気柵もシカが地面に足を着けていないと効かない

対策

2

くぐり抜けにも対応を!

イノシシにも対応する場合に適しているのは電気柵ですが、電気柵を設置する場合には電気線6～7段張りで、2mほどの高さが必要です。また、くぐり抜けできないように、下3段の電線の間隔を20cm程度とする必要があります。

対策

3

定期的に柵のメンテナンスを!

柵に穴が空いたりすると、シカはその穴の場所を覚えて執拗に侵入しようとします。補修はしっかりと行い、侵入されないように定期的な管理が必要です。

足跡

足跡だけでは獣種を特定できないことが多いので、他の痕跡とあわせて総合的に判断してください。

アナグマ



指が短く、
爪が長い

イノシシ



4本指。
前2本のみ跡が
残ることが多い

シカ



4本指。
跡が残るのは前2本

サル



親指が短く4本に
みえることも

ヌートリア



4本指。カモに似た
水かきと爪がある

アライグマ



指5本で
指が長い

！注意

足形がそのまま地面に足跡として残ることはまれです。これらは、被害場所によく見られる足跡を表したもので、状況によって多少形は異なってきます。

糞

ため糞する

アナグマ



ため糞は小規模
テカテカしている

ため糞しない

ヌートリア



5センチ程度で
ラッカセイの形

イノシシ



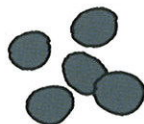
粒状のものが
ひとかたまりに

サル



エサにより
色・形は異なる

シカ



俵型が多い

アライグマ



エサにより
色・形は異なる

！注意

イラストで示した糞はあくまで典型例です。エサや乾燥状態によって形状は異なってきます。



鳥獣害対策 十か条

その1

あなたにもできる！

鳥獣害対策はきっとあなたにもできます。
自分の畑を守る当事者となって、自分でできることを考えましょう。



その2

まず敵を知ろう！

相手を知ることから防除の対策は始まります。
みんなで敵を知ることからはじめましょう。



その3

なぜ被害が起きるのかよく考えよう！

敵のことを知ったら、次にどうして自分の畑に来るのか考えましょう。
鳥獣の気持ちになって畑をみると、入りやすい盲点が見えてくるものです。

その4

絶対に守りたい作物は絶対に守ろう！

あれもこれも守りたい！では、意識も対策も分散しがちになります。
絶対守りたい作物を選び、葉の一枚も食べられない意気込みで守りましょう。



その5

あきらめない！

野生鳥獣にとって一番怖いのは人間です。
生きもの相手に絶対はなく、ねばり強い取り組みこそが鳥獣を遠ざけます。

その6

餌付けをしない！

畑に収穫しない農産物を放置する、出荷できない農産物を廃棄するなど、
餌付けにつながる行為は絶対にやめましょう。餌付けが続く限り、被害は止まりません。



その7

追い払う！

野生鳥獣を見かけたら、ロケット花火や投石などでまず追い払いましょう。
人間を怖い存在だと思わせて、二度と行きたくないと思わせることが肝心です。

その8

近づけない！

家や畑のまわりのヤブや竹林は、格好の「潜み場所」「すみか」となります。
見晴らしを良くして、しっかり人間と獣の生活ゾーンを分けましょう。



その9

過信しない！

被害対策として電柵・網を設置しただけでは、効果はあがりません。
下草刈り、電圧チェックなどのメンテナンスをきちんとすることが必要です。

その10

捕獲と大規模柵は最後の手段！

やれることをやってもまだ被害が出るようならば、捕獲や大規模柵の出番です。
その場合でも、狩猟者への感謝を忘れず、柵設置後の管理を怠らないようにしましょう。

参考文献：井上雅央著『これならできる獣害対策』／江口祐輔著『イノシシから田畑を守る』／古谷益朗著『ハクビシン・アライグマおもしろ生態とかしい防ぎ方』／杉田昭栄著『カラス おもしろ生態とかしい防ぎ方』／農文協編『別冊 現代農業 鳥害・獣害こうして防ぐ』（いずれも農文協刊）他

鳥獣害を防ぐには

2015年3月発行

発行：岩国市鳥獣被害防止対策協議会（連絡先：岩国市産業振興部 農林振興課）
〒740-8585 岩国市今津町一丁目14番51号

TEL. 0827-29-5170
FAX. 0827-24-4224